

平成 25 年度 鹿児島大学 2 次試験前期日程 (数学問題)  
理・工・医・歯・農・水産・共同獣医・教育学部  
平成 25 年 2 月 25 日

- 理 [数理・物理・地環]・工・医 [医]・歯学部 [1] [2] [3] [4] 必答,  
[5] [6] [7] [8] から 1 問選択. 数 II・III・A・B・C(120 分)
- 理 [生命化], 医 [理学療法]・農・水産・共同獣医学部 [1] [2] [3]  
数 II・A・B(90 分)
- 教育 [数学・理科・技術・教育・心理・家政・国語・社会・英語・特別支援教育・  
健康教育] 学部 [1] [3] 必答, [2] [9] から 1 問選択.  
数 II・A・B または 数 III・A・B(90 分)

[1] 次の各問いに答えよ.

- (1) 四角形 ABCD において, 線分 AC と線分 BD の交点を P とし,  $\angle DAC = \angle CBD$ ,  $AC = 8$ ,  $AP = 2$ ,  $PD = 4$  とする. このとき BD の長さを求めよ.
- (2) 平面上で 2 つの円を考える. 共通接線がちょうど 3 本引けるような 2 つの円の位置関係の例を図示せよ. また, 3 本の共通接線も描け.
- (3) 3 個のさいころを同時に投げるとき, 3 個の目の積が 3 の倍数である確率を求めよ.
- (4)  $a, b$  を実数とする. 命題「 $ab = 0$  ならば,  $a = 0$  かつ  $b = 0$ 」の逆と対偶を書き, それぞれの真偽を答えよ.

[2] 次の各問いに答えよ.

- (1) 次の (i), (ii) に答えよ.
  - (i)  $m, n$  が自然数ならば,  $\frac{m}{n} \neq \sqrt{2}$  である. このことを証明せよ.
  - (ii)  $p, q$  が自然数ならば,  $\sqrt{2}$  は  $\frac{p}{q}$  と  $\frac{2q}{p}$  の間にある.  
すなわち,  $\frac{p}{q} < \sqrt{2} < \frac{2q}{p}$  または  $\frac{2q}{p} < \sqrt{2} < \frac{p}{q}$  が成り立つ.  
このことを証明せよ.
- (2) 定数  $a$  は実数で,  $a > 0$ ,  $a \neq 1$  とする. このとき, すべての正の実数  $x, y$  に対して  $x^{\log_a y} = y^{\log_a x}$  が成り立つ. このことを証明せよ.

**3** 次の各問いに答えよ.

(1) 三角形 ABC の垂心を H とする. 次の等式が成り立つことを示せ.

$$\overrightarrow{HA} \cdot \overrightarrow{HB} = \overrightarrow{HB} \cdot \overrightarrow{HC} = \overrightarrow{HC} \cdot \overrightarrow{HA}$$

ただし, 三角形の各頂点から向かい合う辺またはその延長に下ろした 3 本の垂線は 1 点で交わる. この点を三角形の垂心という.

(2) 次の (i), (ii) に答えよ.

(i) 自然数  $n$  に対して自然数  $a_n$  を次のように定義する.

$$a_n = (2n - 1) \cdot (2n - 3) \cdot \dots \cdot 3 \cdot 1$$

このとき, すべての自然数  $k$  に対して  $(2k)! = 2^k k! a_k$  が成り立つ. このことを証明せよ.

(ii) すべての自然数  $n$  に対して,  $2^n!$  は  $2^{(2^n-1)}$  で割り切れる. このことを数学的帰納法で証明せよ.

**4** 次の各問いに答えよ.

(1)  $\int_{-\pi}^{\pi} x \sin x \, dx$  を求めよ.

(2)  $\int_{-\pi}^{\pi} \sin 2x \sin 3x \, dx$  を求めよ.

(3)  $m, n$  を自然数とする.  $\int_{-\pi}^{\pi} \sin mx \sin nx \, dx$  を求めよ.

(4)  $\int_{-\pi}^{\pi} \left( \sum_{k=1}^{2013} \sin kx \right)^2 dx$  を求めよ.

5 2次の正方行列  $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$  に対して、 $\Delta(A) = ad - bc$  とおく。たとえば単位行列  $E = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$  に対しては  $\Delta(E) = 1 \times 1 - 0 \times 0 = 1$  となる。また  $K = \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 5 & 7 \end{pmatrix}$  に対しては  $\Delta(K) = 2 \times 7 - 3 \times 5 = -1$  となる。次の各問いに答えよ。

(1)  $P = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}$ ,  $Q = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}$  に対して  $R = PQ$  とおく。  $\Delta(P)$ ,  $\Delta(Q)$ ,  $\Delta(R)$  を計算し、  $\Delta(R) = \Delta(P)\Delta(Q)$  が成り立つことを確かめよ。

(2) すべての2次の正方行列  $A$ ,  $B$  に対して、  $C = AB$  とおくと  $\Delta(C) = \Delta(A)\Delta(B)$  が成り立つことを示せ。

(3)  $X^2 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$  となる2次の正方行列  $X$  ですべての成分が実数であるものは存在しないことを示せ。

(4) 2次の正方行列  $A$  に逆行列  $B$  が存在したとする。  $A$  と  $B$  の成分がすべての整数ならば、  $\Delta(A)$  は1か-1のどちらかである。このことを示せ。

6  $xy$  平面において、点  $F(p, 0)$  と  $y$  軸から等距離にある点の軌跡を  $C$  とする。ただし、  $p > 0$  とする。次の各問いに答えよ。

(1)  $C$  を表す方程式を求めよ。

(2)  $C$  上の点  $P(x_0, y_0)$  における  $C$  の接線  $l$  の方程式を求めよ。ただし、  $y_0 \neq 0$  とする。

(3) (2) の  $l$  と  $x$  軸の交点を  $Q$  とするとき、  $FP = FQ$  であることを証明せよ。

7 0, 1, 2, 3, 4の数字が1つずつ記入された5枚のカードがある。この5枚のカードの中から1枚引き、数字を記録して戻すという作業を3回繰り返す。ただし、3回ともどのカードを引く確率も等しいとする。記録した3つの数字の最小値を  $X$  とするとき、次の各問いに答えよ。

(1)  $k = 0, 1, 2, 3, 4$  に対して確率  $P(X \geq k)$  を求めよ。

(2) 確率変数  $X$  の確率分布を表で表せ。

(3) 確率変数  $X$  の平均(期待値)  $E(X)$  を求めよ。

(4) 確率変数  $X$  の分散  $V(X)$  を求めよ。

- 8 確率変数  $X$  のとる値の範囲が  $0 \leq X \leq 2$  で、その確率密度関数  $f(x)$  が次の式で与えられるものとする。

$$f(x) = \begin{cases} \frac{k}{a}x & (0 \leq x \leq a) \\ \frac{k}{2-a}(2-x) & (a < x \leq 2) \end{cases}$$

ここで、 $a, k$  は  $0 < a < 1, k > 0$  を満たす定数である。次の各問いに答えよ。

- (1) 定数  $k$  の値を求めよ。
  - (2)  $X$  の平均 (期待値)  $E(X)$  を  $a$  を用いて表せ。
  - (3)  $P(X \leq u) = 0.5$  となる実数  $u$  を  $a$  を用いて表せ。
- 9  $xy$  平面において、曲線  $y = e^x$  と 3 直線  $y = x + 1, x = 1, x = -1$  で囲まれた部分を  $D$  とする。ただし  $e$  は自然対数の底である。次の各問いに答えよ。
- (1) 関数  $f(x) = e^x - (x + 1)$  の増減, 極値, 凹凸を  $-1 \leq x \leq 1$  の範囲で調べ, 増減表にまとめよ。
  - (2)  $D$  を図示せよ。
  - (3)  $D$  を  $x$  軸のまわりに 1 回転させてできる回転体の体積  $V$  を求めよ。

## 解答例

- 1 (1)  $\angle DAC = \angle CBD$  であるから、円周角の定理により、四角形 ABCD は円に内接する。

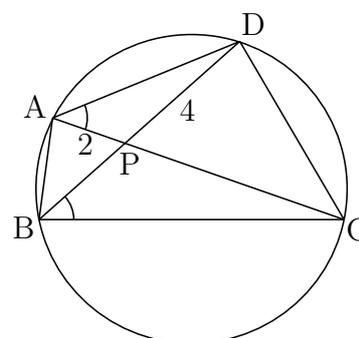
$$AC = 8, AP = 2 \text{ より } PC = 6$$

方べきの定理により

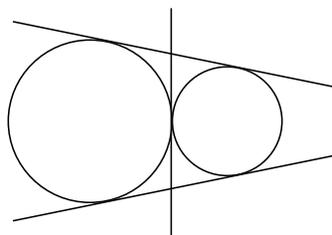
$$PA \cdot PC = PB \cdot PD \quad \text{ゆえに} \quad 2 \cdot 6 = PB \cdot 4$$

$$\text{したがって } PB = 3$$

$$\text{よって } BD = PB + PD = 3 + 4 = 7$$



- (2) 共通接線が3本引けるのは、2円が外接するときで、次の図のようになる。



- (3) 3個とも3の倍数の目でない確率は  $\left(\frac{4}{6}\right)^3 = \frac{8}{27}$

求める確率は、この余事象(少なくとも1個は3の倍数)の確率であるから

$$1 - \frac{8}{27} = \frac{19}{27}$$

- (4) 逆の命題は「 $a = 0$ かつ $b = 0$ ならば $ab = 0$ 」(真)  
 対偶命題は「 $a \neq 0$ または $b \neq 0$ ならば $ab \neq 0$ 」(偽)(反例  $a = 0, b = 1$ )



2 (1) (i)  $m$  と  $n$  の最大公約数を  $G$  とし

$$m = Gm', \quad n = Gn'$$

とすると ( $m', n'$  は互いに素)

$$\frac{m}{n} = \frac{m'}{n'}$$

が成り立つ. ここで,  $\frac{m'}{n'} = \sqrt{2}$  であると仮定すると

$$m' = \sqrt{2}n'$$

この両辺を平方すると

$$m'^2 = 2n'^2$$

よって,  $m'^2$  は偶数, すなわち  $m'$  は偶数である. 偶数  $m'$  はある自然数  $k$  を用いて,  $m' = 2k$  と表されるから

$$(2k)^2 = 2n'^2 \quad \text{ゆえに} \quad 2k^2 = n'^2$$

よって,  $n'^2$  は偶数となり,  $n'$  も偶数である.

$m'$  と  $n'$  がともに偶数となることは,  $m'$  と  $n'$  が互いに素であることに反する.

したがって  $\frac{m'}{n'} \neq \sqrt{2}$  よって  $\frac{m}{n} \neq \sqrt{2}$

(ii) i) の結果から,  $p, q$  が自然数ならば  $\frac{p}{q} \neq \sqrt{2}$  であるから

$$\frac{p}{q} < \sqrt{2} \text{ のとき } \frac{q}{p} > \frac{1}{\sqrt{2}} \quad \text{すなわち} \quad \frac{2q}{p} > \sqrt{2}$$

$$\frac{p}{q} > \sqrt{2} \text{ のとき } \frac{q}{p} < \frac{1}{\sqrt{2}} \quad \text{すなわち} \quad \frac{2q}{p} < \sqrt{2}$$

よって,  $\frac{p}{q} < \sqrt{2} < \frac{2q}{p}$  または  $\frac{2q}{p} < \sqrt{2} < \frac{p}{q}$  が成り立つ.

(2)  $b = x^{\log_a y}$ ,  $c = y^{\log_a x}$  とおき, 2式の両辺を  $a$  を底とする対数をとると

$$\begin{aligned} \log_a b &= \log_a x^{\log_a y} & \log_a c &= \log_a y^{\log_a x} \\ &= \log_a y \log_a x & &= \log_a x \log_a y \end{aligned}$$

ゆえに  $\log_a b = \log_a c$  すなわち  $b = c$  よって  $x^{\log_a y} = y^{\log_a x}$  ■

3 (1)  $\overrightarrow{HA} \perp \overrightarrow{BC}$  であるから  $\overrightarrow{HA} \cdot \overrightarrow{BC} = 0$  より

$$\overrightarrow{HA} \cdot (\overrightarrow{HC} - \overrightarrow{HB}) = 0$$

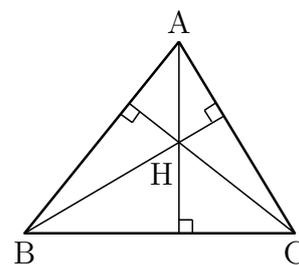
ゆえに  $\overrightarrow{HC} \cdot \overrightarrow{HA} = \overrightarrow{HA} \cdot \overrightarrow{HB} \quad \dots \textcircled{1}$

また  $\overrightarrow{HB} \perp \overrightarrow{CA}$  であるから  $\overrightarrow{HB} \cdot \overrightarrow{CA} = 0$  より

$$\overrightarrow{HB} \cdot (\overrightarrow{HA} - \overrightarrow{HC}) = 0$$

ゆえに  $\overrightarrow{HA} \cdot \overrightarrow{HB} = \overrightarrow{HB} \cdot \overrightarrow{HC} \quad \dots \textcircled{2}$

①, ② より  $\overrightarrow{HA} \cdot \overrightarrow{HB} = \overrightarrow{HB} \cdot \overrightarrow{HC} = \overrightarrow{HC} \cdot \overrightarrow{HA}$



(2) (i)  $a_k = \prod_{j=1}^k (2j - 1)$  であるから

$$\begin{aligned} (2k)! &= \prod_{j=1}^k 2j(2j - 1) \\ &= \left( \prod_{j=1}^k 2 \right) \left( \prod_{j=1}^k j \right) \left\{ \prod_{j=1}^k (2j - 1) \right\} \\ &= 2^k k! a_k \end{aligned}$$

(ii) 「自然数  $n$  に対して,  $2^n!$  は  $2^{(2^n-1)}$  で割り切れる」を (\*) とする.

[1]  $n = 1$  のとき,  $2^1! = 2$  は  $2^{(2^1-1)} = 2$  で割り切れる.

よって,  $n = 1$  のとき, (\*) が成り立つ.

[2]  $n = k$  のとき, (\*) が成り立つと仮定すると, 整数  $l$  を用いて

$$2^k! = l \cdot 2^{(2^k-1)}$$

とおける. (i) の結果を利用して

$$\begin{aligned} 2^{k+1}! &= (2 \cdot 2^k)! = 2^{2^k} (2^k!) a_{2^k} \\ &= 2^{2^k} l \cdot 2^{(2^k-1)} a_{2^k} \\ &= 2^{(2^k+2^k-1)} l \cdot a_{2^k} \\ &= 2^{(2 \cdot 2^k-1)} l \cdot a_{2^k} = 2^{(2^{k+1}-1)} l \cdot a_{2^k} \end{aligned}$$

よって,  $n = k + 1$  のときも, (\*) が成り立つ.

[1], [2] より, すべての自然数  $n$  について, (\*) が成り立つ. ■

$$\begin{aligned}
 \boxed{4} \quad (1) \quad \int_{-\pi}^{\pi} x \sin x \, dx &= 2 \int_0^{\pi} x \sin x \, dx = 2 \int_0^{\pi} x(-\cos x)' \, dx \\
 &= 2 \left[ -x \cos x \right]_0^{\pi} - 2 \int_0^{\pi} (-\cos x) \, dx \\
 &= 2\pi + 2 \left[ \sin x \right]_0^{\pi} = \mathbf{2\pi}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 (2) \quad \int_{-\pi}^{\pi} \sin 2x \sin 3x \, dx &= 2 \int_0^{\pi} \sin 2x \sin 3x \, dx \\
 &= \int_0^{\pi} (-\cos 5x + \cos x) \, dx \\
 &= \left[ -\frac{1}{5} \sin 5x + \sin x \right]_0^{\pi} = \mathbf{0}
 \end{aligned}$$

(3)  $m = n$  のとき

$$\begin{aligned}
 (\text{与式}) &= 2 \int_0^{\pi} \sin^2 mx \, dx \\
 &= \int_0^{\pi} (1 - \cos 2mx) \, dx \\
 &= \left[ x - \frac{1}{2m} \sin 2mx \right]_0^{\pi} = \mathbf{\pi}
 \end{aligned}$$

$m \neq n$  のとき

$$\begin{aligned}
 (\text{与式}) &= 2 \int_0^{\pi} \sin mx \sin nx \, dx \\
 &= \int_0^{\pi} \{-\cos(m+n)x + \cos(m-n)x\} \, dx \\
 &= \left[ -\frac{1}{m+n} \sin(m+n)x + \frac{1}{m-n} \sin(m-n)x \right]_0^{\pi} = \mathbf{0}
 \end{aligned}$$

(4) (3) の結果を利用すると

$$\begin{aligned}
 \int_{-\pi}^{\pi} \left( \sum_{k=1}^{2013} \sin kx \right)^2 dx &= \int_{-\pi}^{\pi} \left( \sum_{m=1}^{2013} \sin mx \right) \left( \sum_{n=1}^{2013} \sin nx \right) dx \\
 &= \sum_{m=1}^{2013} \int_{-\pi}^{\pi} \sin^2 mx \, dx \\
 &= \sum_{m=1}^{2013} \pi = \mathbf{2013\pi}
 \end{aligned}$$



$$\boxed{5} \quad (1) \quad P = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 2 & 3 \end{pmatrix} \text{ より } \Delta(P) = 0 \cdot 3 - 1 \cdot 2 = -2$$

$$Q = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix} \text{ より } \Delta(Q) = 1 \cdot 4 - 2 \cdot 3 = -2$$

$$R = PQ = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 2 & 3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 & 4 \\ 11 & 16 \end{pmatrix}$$

$$\text{よって } \Delta(R) = 3 \cdot 16 - 4 \cdot 11 = 4 = (-2) \cdot (-2) = \Delta(P)\Delta(Q)$$

$$(2) \quad A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} x & y \\ z & u \end{pmatrix} \text{ とすると}$$

$$\Delta(A) = ad - bc, \quad \Delta(B) = xu - yz$$

$$C = AB = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x & y \\ z & u \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} ax + bz & ay + bu \\ cx + dz & cy + du \end{pmatrix} \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \Delta(C) &= (ax + bz)(cy + du) - (ay + bu)(cx + dz) \\ &= (ad - bc)xu - (ad - bc)yz \\ &= (ad - bc)(xu - yz) \\ &= \Delta(A)\Delta(B) \end{aligned}$$

$$(3) \quad F = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \text{ より } \Delta(F) = 0 \cdot 0 - 1 \cdot 1 = -1$$

$X^2 = F$  であるから, (2) の結果を利用して

$$\Delta(X^2) = \Delta(F) \quad \text{ゆえに} \quad \{\Delta(X)\}^2 = -1$$

正方行列  $X$  の成分は実数であるから, これをみたす  $X$  は存在しない.

$$(4) \quad AB = E \text{ であるから}$$

$$\Delta(A)\Delta(B) = \Delta(E) \quad \text{ゆえに} \quad \Delta(A)\Delta(B) = 1$$

$A, B$  の成分がすべて整数であるから,  $\Delta(A), \Delta(B)$  は整数である.  
よって,  $\Delta(A)$  は 1 か  $-1$  のどちらかである. ■

- 6** (1)  $C$  上の点  $(x, y)$  が  $F(p, 0)$  と  $y$  軸から等距離にあるので

$$\sqrt{(x-p)^2 + y^2} = |x| \quad \cdots \textcircled{1}$$

ゆえに  $(x-p)^2 + y^2 = x^2$  整理すると  $y^2 = 2px - p^2$

- (2)  $y^2 = 2px - p^2$  の両辺を  $x$  で微分すると

$$2y \frac{dy}{dx} = 2p \quad \text{ゆえに} \quad \frac{dy}{dx} = \frac{p}{y}$$

$C$  上の点  $P(x_0, y_0)$  における接線  $l$  の方程式は ( $y_0 \neq 0$ )

$$y - y_0 = \frac{p}{y_0}(x - x_0) \quad \text{ゆえに} \quad y_0 y - y_0^2 = px - px_0$$

$y_0^2 = 2px_0 - p^2$  であるから  $y_0 y = p(x + x_0 - p)$

- (3)  $P(x_0, y_0)$  は,  $C$  上の点であるから,  $\textcircled{1}$  より

$$FP = \sqrt{(x_0 - p)^2 + y_0^2} = |x_0|$$

(2) の結果から,  $l$  の  $x$  軸との交点  $Q$  の座標は  $(p - x_0, 0)$

これと  $F(p, 0)$  から  $FQ = |x_0|$  よって  $FP = FQ$  ■

- 7 (1)  $k = 0, 1, 2, 3, 4$  に対する確率  $P(X \geq k)$  は, 3回とも  $k$  以上のカードである確率であるから

$$P(X \geq k) = \left(\frac{5-k}{5}\right)^3$$

- (2) (1) の結果から

- i)  $k = 0, 1, 2, 3$  のとき

$$\begin{aligned} P(X = k) &= P(X \geq k) - P(X \geq k+1) \\ &= \left(\frac{5-k}{5}\right)^3 - \left(\frac{4-k}{5}\right)^3 \end{aligned}$$

- ii)  $k = 4$  のとき

$$P(X = 4) = P(X \geq 4) = \left(\frac{5-4}{5}\right)^3 = \frac{1}{125}$$

- i), ii) より,  $X$  の確率分布は次のようになる.

$X$	0	1	2	3	4	計
$P$	$\frac{61}{125}$	$\frac{37}{125}$	$\frac{19}{125}$	$\frac{7}{125}$	$\frac{1}{125}$	1

- (3) (2) の結果から

$$E(X) = 0 \times \frac{61}{125} + 1 \times \frac{37}{125} + 2 \times \frac{19}{125} + 3 \times \frac{7}{125} + 4 \times \frac{1}{125} = \frac{100}{125} = \frac{4}{5}$$

$$(4) E(X^2) = 0^2 \times \frac{61}{125} + 1^2 \times \frac{37}{125} + 2^2 \times \frac{19}{125} + 3^2 \times \frac{7}{125} + 4^2 \times \frac{1}{125} = \frac{192}{125}$$

$$\text{よって} \quad V(X) = E(X^2) - \{E(X)\}^2 = \frac{192}{125} - \left(\frac{4}{5}\right)^2 = \frac{112}{125} \quad \blacksquare$$

$$\begin{aligned} \text{8 (1)} \quad \int_0^2 f(x) dx &= \int_0^a \frac{k}{a} x dx + \int_a^2 \frac{k}{2-a} (2-x) dx \\ &= k \left[ \frac{x^2}{2a} \right]_0^a + k \left[ -\frac{(2-x)^2}{2(2-a)} \right]_a^2 = \frac{a}{2}k + \frac{2-a}{2}k = k \end{aligned}$$

$$\int_0^2 f(x) dx = 1 \text{ であるから } \quad \mathbf{k = 1}$$

解説  $\int_0^2 f(x) dx$  は, 3点  $(0, 0)$ ,  $(a, k)$ ,  $(2, 0)$  を頂点する三角形の面積.

(2)  $k = 1$  より

$$\begin{aligned} E(X) &= \int_0^2 x f(x) dx \\ &= \int_0^a \frac{x^2}{a} dx + \int_a^2 \frac{x(2-x)}{2-a} dx \\ &= \left[ \frac{x^3}{3a} \right]_0^a + \int_a^2 \left\{ \frac{2(2-x)}{2-a} - \frac{(2-x)^2}{2-a} \right\} dx \\ &= \frac{a^2}{3} + \left[ -\frac{(2-x)^2}{2-a} + \frac{(2-x)^3}{3(2-a)} \right]_a^2 \\ &= \frac{a^2}{3} + (2-a) - \frac{1}{3}(2-a)^2 \\ &= \frac{\mathbf{a + 2}}{\mathbf{3}} \end{aligned}$$

$$(3) \quad \int_0^a \frac{x}{a} dx = \left[ \frac{x^2}{2a} \right]_0^a = \frac{a}{2} < \frac{1}{2} = 0.5$$

上式および  $P(X \leq u) = 0.5$  より  $u > a$

$$\begin{aligned} P(X \leq u) &= \int_0^a \frac{x}{a} dx + \int_a^u \frac{2-x}{2-a} dx \\ &= \frac{a}{2} + \left[ -\frac{(2-x)^2}{2(2-a)} \right]_a^u \\ &= \frac{a}{2} - \frac{(2-u)^2}{2(2-a)} + \frac{2-a}{2} = 1 - \frac{(2-u)^2}{2(2-a)} \end{aligned}$$

したがって  $1 - \frac{(2-u)^2}{2(2-a)} = 0.5$  ゆえに  $(2-u)^2 = 2-a$

$a < u < 2$  であるから,  $2-u > 0$ ,  $2-a > 0$  より

$$2-u = \sqrt{2-a} \quad \text{よって} \quad \mathbf{u = 2 - \sqrt{2-a}}$$

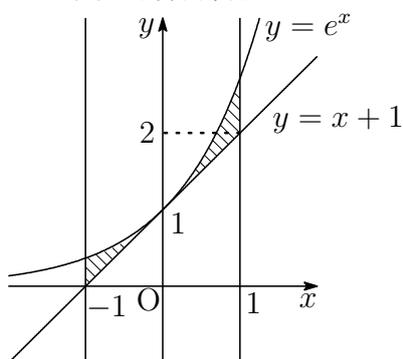


- 9 (1)  $f(x) = e^x - (x+1)$  より  $f'(x) = e^x - 1$ ,  $f''(x) = e^x$   
したがって,  $f(x)$  の  $-1 \leq x \leq 1$  における増減表は次のようになる.

$x$	-1	...	0	...	1
$f'(x)$		-	0	+	
$f''(x)$		+	+	+	
$f(x)$	$\frac{1}{e}$	$\searrow$	0	$\nearrow$	$e-2$

$x=0$  で極小値 0

- (2)  $D$  は図の斜線部分



- (3) 求める体積  $V$  は

$$\begin{aligned}
 V &= \pi \int_{-1}^1 e^{2x} dx - \frac{1}{3} \pi \cdot 2^2 \cdot 2 \\
 &= \pi \left[ \frac{e^{2x}}{2} \right]_{-1}^1 - \frac{8}{3} \pi \\
 &= \pi \left( \frac{e^2}{2} - \frac{1}{2e^2} - \frac{8}{3} \right)
 \end{aligned}$$

■